

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2022年6月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2022年6月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:283、回収数:109、回収率:38.5%、回収期間:2022年6月22日～2022年6月30日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

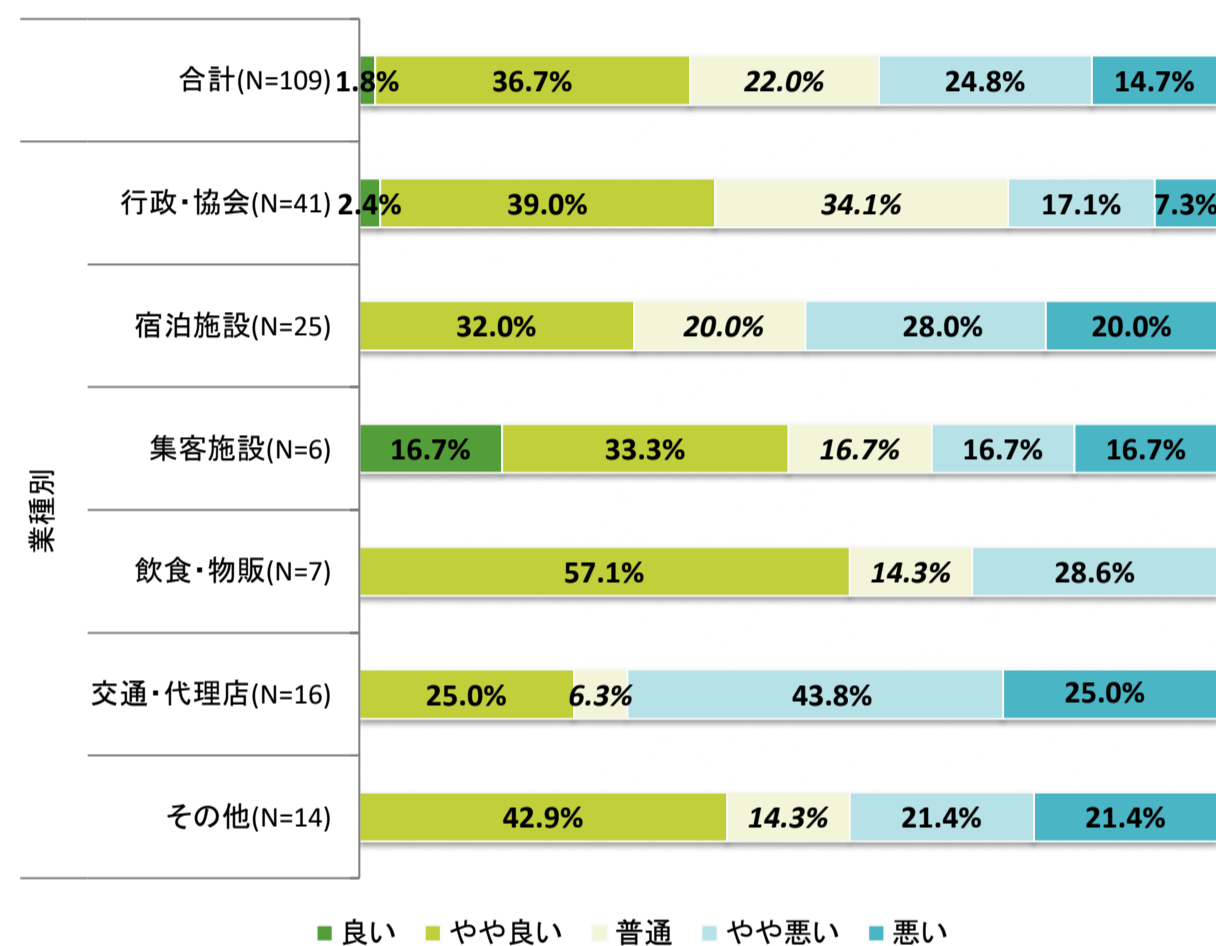
1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (4月～6月)	見通しDI (7月～9月)
合計(N=109)	46.6	71.1
行政・協会(N=41)	53.0	73.8
宿泊施設(N=25)	41.0	67.0
集客施設(N=6)	54.2	75.0
飲食・物販(N=7)	57.1	62.5
交通・代理店(N=16)	32.8	71.9
その他(N=14)	44.6	69.6

4～6月の熊本県の現状判断DIは46.6となった。景況感を「良い」もしくは「やや良い」とした事業者等が増加したことから、前期(14.1)に比べて大きく上昇した。これまで、新型コロナウイルス感染状況の一時的な改善が見られた際には、飲食・物販、行政・協会においてDIが50を上回る回復がしばしばみられたが、今回はこれに加え、集客施設でもDIが50を上回った。交通・代理店、宿泊施設では依然DIが50を下回っているが、多くの施設でコロナ禍からの回復傾向が報告されている。

また、見通しDIは71.1となった。「良くなる」「やや良くなる」と見通される理由には、新型コロナウイルスの感染状況改善、またウィズコロナの定着を想定したイベントの再開や国の観光政策への期待、またインバウンド需要の復活などが見られた。県南では豪雨被害からの復興による業況改善も見込まれている。一方、長引く人流の停滞への懸念や助成事業の効果について不安視する声もある。

2. 4～6月期の動向、景況感

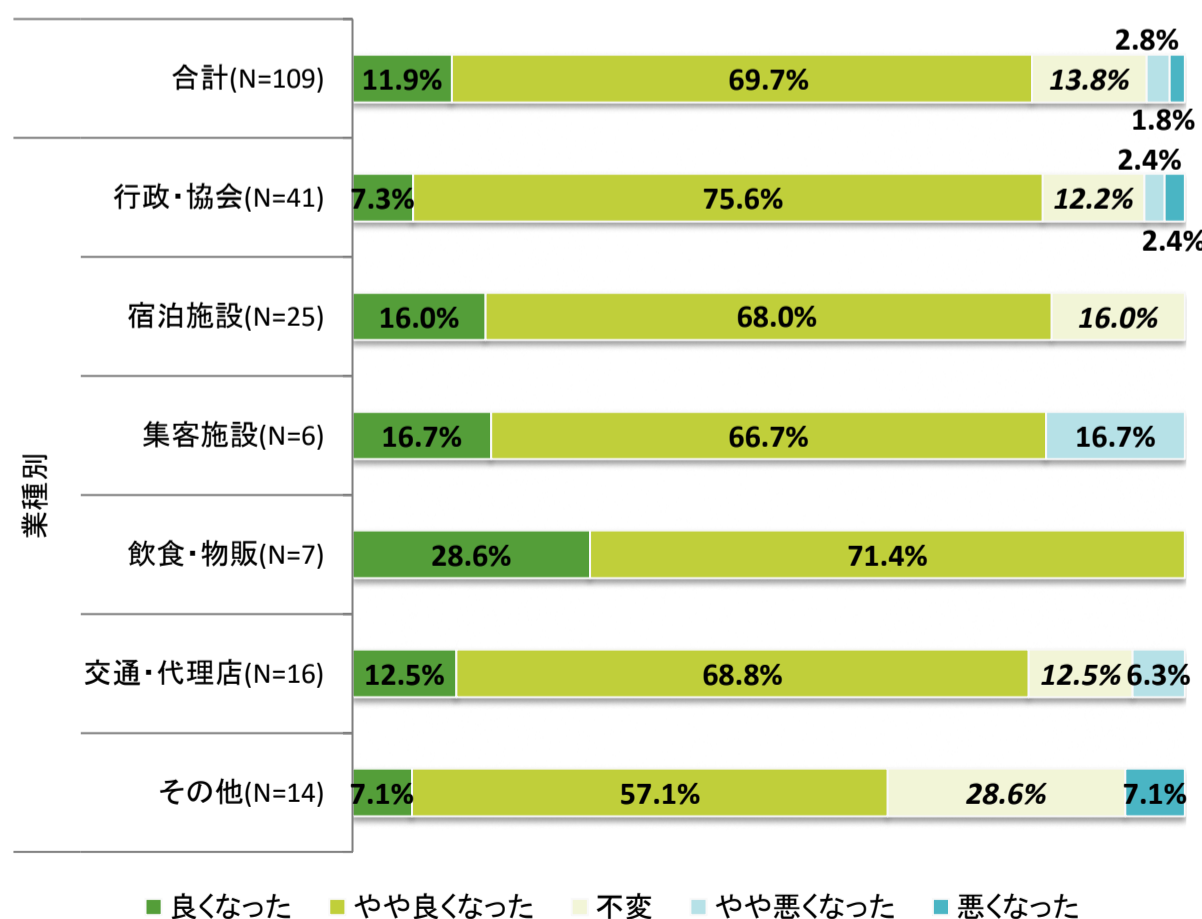


4～6月の景況感は、全体では「良い」「やや良い」の合計が38.5%、「悪い」「やや悪い」は39.4%となった。集客施設や飲食・物販で「良い」「やや良い」の回答が多かった。

【コメントの抜粋】

- 良い
ゴールデンウィークが好調。学校団体に関しても戻り傾向で、プラス方面変更の普段来ない修学旅行が来園したため昨年よりは順調に推移している。(集客施設)
- やや良い
新型コロナウイルスの感染状況も小康状態が続いており、行政の各種キャンペーンによりお客様の動きも活発になっているため(その他業種)
催事イベントが行われたため(飲食・物販)
- 普通
GW周辺時期はお客様も多く賑わいを見せていました。それ以降は低調な日が続いています。コロナ禍前の状況が戻りつつあった感じでした。(行政・協会)
豪雨災害の影響が依然として収まらない(行政・協会)
- やや悪い
宿泊関連は県・町などの助成により戻りつつあるが、宴会の需要が戻らない(宿泊施設)
- 悪い
コロナ禍の影響は依然として続いている。(交通・代理店)

3. 1～3月期に比べた4～6月の動向、景況感

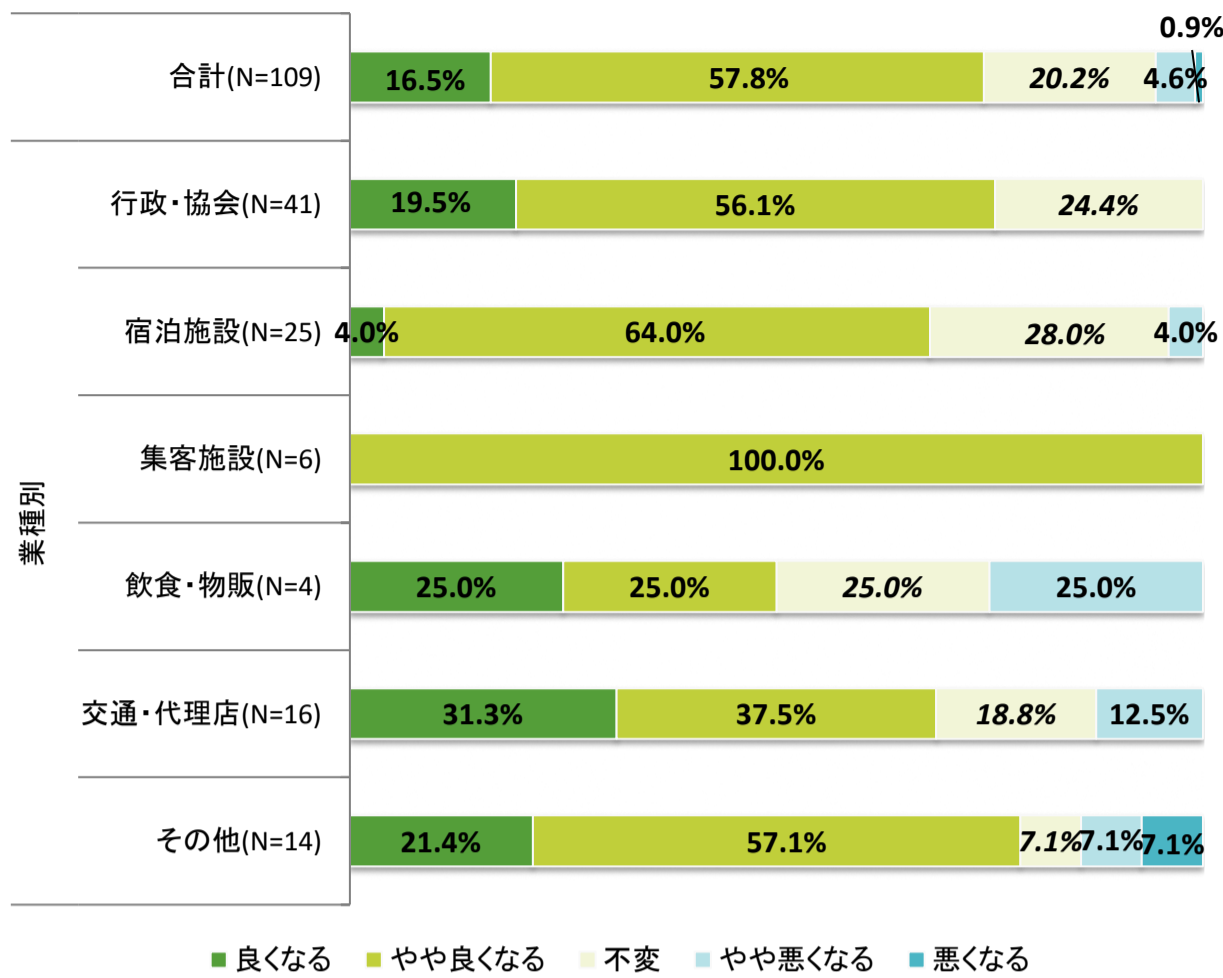


1～3月期に比べた4～6月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が81.7%となり、飲食・物販では100%となった。また、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で4.6%となった。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
制限が解除され、今まで我慢していたシニア世代が動き始めており、それに伴い人出と売上が上がっている。(飲食・物販)
- やや良くなった
コロナ感染者数の減少傾向と県民割などの旅行助成制度の活用などから(集客施設)
屋外でのマスク不要、都道府県を跨ぐ旅行割の再開など、コロナ禍の収束が少しずつ見えてきたから。ただし、円安関連による燃料代高騰などが旅行の足止めにならないかの懸念がある。(行政・協会)
世間がウィズコロナへと舵を切り、旅行への考え方にも変化が生じてきている(交通・代理店)
- 不変
通常であれば春から稼働が良くなるはずだが、GWの動きが悪かったし、観光客が少ない(宿泊施設)
- 悪くなった
コロナの影響のため(その他業種)

4. 今後、9月までの業況の見通し



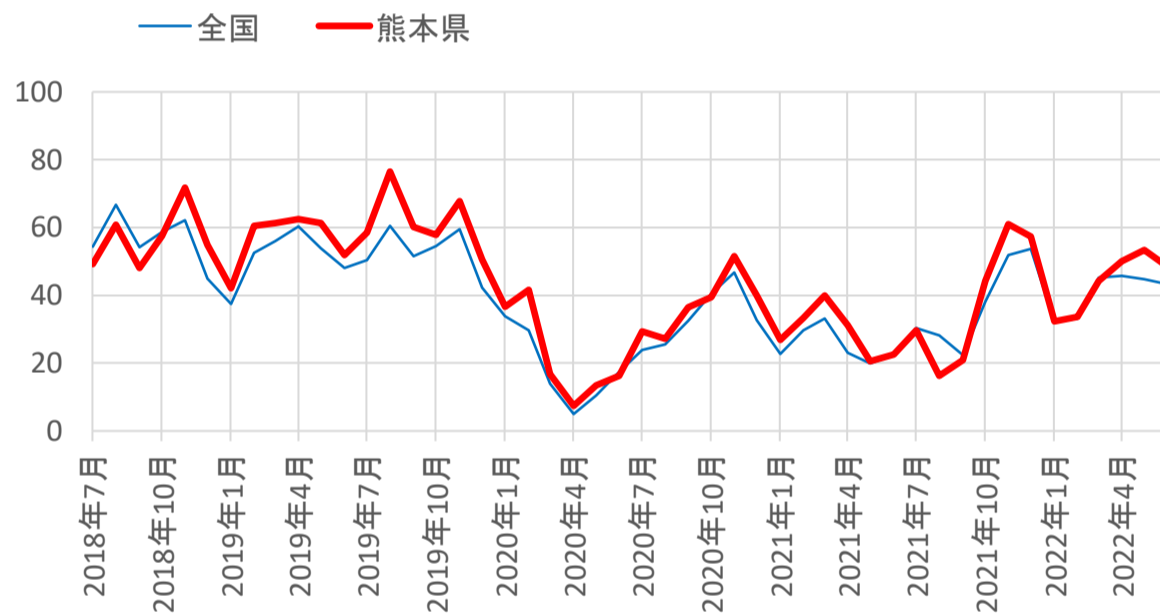
今後9月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は74.3%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は5.5%となっている。「良くなる」「やや良くなる」の理由として、新型コロナウイルスの感染状況が改善することを見据え、イベントの再開や全国旅行支援に言及する回答が多かった。このほか、円安や例年より早い梅雨明けなどの要因を考慮した回答もみられた。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
自粛していたイベント等の再開や宿泊助成の影響が予想されるため。(行政・協会)
- やや良くなる
円安の影響で国内観光の需要が高まるとされる。(行政・協会)
インバウンドの再開(集客施設)
梅雨も短かったため、レジャー需要が増え、売上アップが期待できる。(飲食・物販)
球磨川下りの再開に向けて準備を進めているので、再開した際には、増客が見込めると思う。(集客施設)
- 不変
団体等の利用も増えておりますが、県民割の全国版次第で変化がみられるのではないかと思います。(宿泊施設)
- やや悪くなる
夏休み期間は需要はあるが、個人旅行主体で単価も低く、収益を引き上げるほどはないと考える(交通・代理店)

5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別

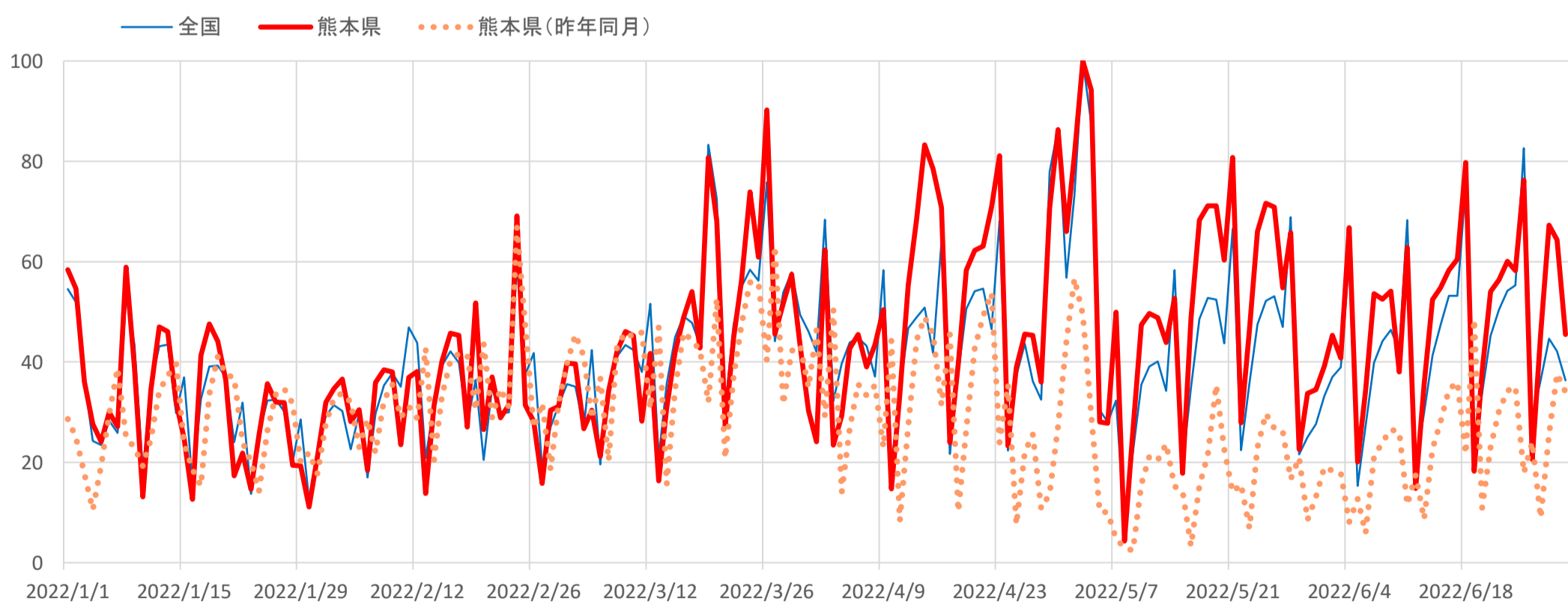


2022年4月における熊本県の宿泊稼働指数は50.0(前年差+18.9pt)、5月は53.4(同+32.9pt)、6月は48.4(同+25.8pt)となった。同期(4~6月)としては3年ぶりにコロナ禍による行動規制がなく、昨年・一昨年を大きく上回る稼働状況となっている。

新型コロナウイルス第6波が収束し、4月以降も全国的に感染状況が落ち着いていたこと、また「くまもと再発見の旅(県民割)」や各市町村の宿泊キャンペーンの再開により、県内の宿泊需要が高まったことから、稼働状況が前期(1~3月)から改善に向かった。

エリア別では人吉、菊池、荒尾・玉名で宿泊稼働指数が高い傾向にある。このほか、熊本市・阿蘇などのエリアも、前期から大きく上昇している。

②日次別



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)で見ると、4月下旬以降、木~土曜日を中心に宿泊稼働指数が60を上回る日が増加した。ゴールデンウィーク期間には、4月30日・5月2~4日の4日間で指数が80を上回り、特に5/3(火・憲法記念日)は、指数が100(=過去730日で空室数が最も少ない日)となった。連休明けは一時反動減になったものの、5月下旬以降は、土曜日は60~80で安定し、平日も50以上となる日が多い。キャンペーン等により喚起された観光需要に加えて、出張など業務目的の宿泊も回復傾向にあると考えられる。

全国と比較すると、ゴールデンウィークを含む土休日は全国並みの日が多いが、平日は熊本県が全国を上回る傾向にある。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデック)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4~6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。

具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\left(\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) / \left(\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) * 100 \right)$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。